

第2回糸島市中小企業振興審議会 会議録

【日 時】令和3年3月22日（月）10：00～ 12：00

【場 所】糸島市役所 第一委員会室

【出席者】委 員：大館委員 中原委員 吉田委員 小津委員 福島副会長 藤野委員

村上会長 佐竹委員 岡本委員 尾崎委員 大城委員 安武委員

事務局：大神部長 松本課長 田中課長補佐 井上係長 中島主幹 甲斐主事

【内 容】

1. 会長あいさつ

何を議論する必要があるかを明確にし、次回以降の方向性を決めたい。

2. 議事

(1) 糸島市中小企業振興計画について 資料1

会長	今日の会議で、今後何を議論していくか明確にしたい。計画案の内容、組織体制など。限られた時間だが審議していきたい。
事務局	【資料に沿って説明】 計画について、具体的な内容はこれからの検討となる。
会長	第2章の3、アンケートの結果について、商工会と同友会が中心となってアンケートを実施している。市が主催ではなく、団体が中心でまとめたアンケートを、市の計画に正式なものとして使ってよいか、委員皆さんの確認を取っておきたい。 第4章、推進体制の在り様について意見頂きたい。審議会のメンバーでワーキングにより議論したものを、審議会に挙げて審査していく。福岡市でも国もそのようにしている。現状、審議会だけで策定を進めるのは難しい。どうやって現場の声を計画に反映させていくか、ご意見をいただきたい。 進捗管理については、計画では何年までに何件達成するという、指標化をしなければならない。 市長期総合計画（以下総合計画）との整合性を採りながら、どのような内容とするのか、計画の位置づけを理解してもらうため、別紙資料を参考で作成した。 総合計画と中小企業振興計画との相関を整理している。 会長が作成し当日配付した資料で説明 資料 P19 にある事業で、本計画に継承した方がよいものを拾って行ってよいと思う。資料 P22 長期計画との関連性を整理してもらいたい。どこがどこに関わっているのか。
委員	素案の計画の位置づけに違和感がある。 本計画は条例に基づく永続的なものである。そのため、市の最上位計画である総合計画に整合した計画である必要はあるが、総合計画の政策「地域経済の活性化」を推進するための計画ではない。

	<p>地域経済の活性化は横軸として展開されるものの、計画を地域経済の活性化ととらえて議論すると本末転倒になる。</p> <p>条例のための計画なのに、総合計画のための計画となっていないか。</p> <p>そうすると、商工業振興計画と変わらないのではないか。</p>
会長	<p>藤野委員が言われるとおりに、同じ目的でやっているけど整合性が採れない。</p> <p>資料2ページ、計画を総合計画に合わせては本末転倒だ。</p> <p>あくまで総合計画がしようとするので、共通点があるものはなるべく入れ込む考え。本来、総合計画と計画の方向性が違うが、例えばIT化を各部署バラバラでやったらもったいないので、共通する部分では計画にも盛り込むという考え。</p> <p>柱は中小企業をどうしていくかであるが、かといって総合計画を全く無視することもできない。</p>
委員	<p>正直まだわかりにくさがある。</p> <p>もうちょっと明確に計画が把握できる、工夫が必要かなと思う。例えば企業規模別。</p>
会長	<p>企業の規模別に計画を立てるのは難しく、かなり詰めていく必要がある。</p> <p>時間が足りない。推進体制を工夫しないとできない。</p> <p>フレーム（計画の枠組み）が決まらないとワーキング会議も進まない。</p>
委員	<p>商工会は日々、事業者と接している。条例はわかりにくいところもあるが、市民や事業者理解してもらわないといけない。伝えていくには、商工会職員に理解してもらうことが大事。</p> <p>商工会に戻ったら今日この場でどういった話があったと、伝えなければならない。</p> <p>そういう何かをいただければと思う。我々だけの理解ではダメだと思う。</p>
会長	<p>推進体制の情報発信のところで議論していきたい。</p> <p>正直、こんな短い期間では計画を作成しないが、やらなければならない。</p> <p>ある程度の方向性を示していかないと計画が動かない。</p> <p>事業者の自立度が街の魅力を作っていく。自分はこういうことをやろう、という考え。</p> <p>アンケートの結果を見ると、自立度が感じられない、まじめに回答してくれたのか。本当の意見ではないかもしれない。現場でのヒアリングも必要と考える。</p>
委員	<p>プレミアム商品券の事業には、非常に条例から抜き出したような市民事業者の気持ち表れている。市民と事業者の接点がある。我々が大事なことを理解してもらえりいいチャンス。商品券に絡ませて何かできないか。事業者の意見、消費者の感じ方が変わってきた。令和3年度の商品券は条例のことを意識しながら実施しなくてはならない。</p>
会長	<p>具体的な施策で議論していきたい。</p>
委員	<p>資料1の各項目、第2章以降を肉付けしていくという理解でよいか。</p>
会長	<p>その理解で良い。第4章がどういったことをしていくかになる。</p>
委員	<p>商工業振興計画アクションプランとの関係性は。</p>
会長	<p>（商工業振興計画は）これまで市が実施した事業（やり方）である。成果が上がった</p>

	ものをそのまま引き継いでも良いし、ブラッシュアップした方が良いものがあるかもしれない。
(2) 事業者アンケートについて	
委員	現在集計中、360件アンケートを取った。
委員	3月5日に367件データいただいた。精度が悪いデータが全体の1/3程度あった。現在データ分析中。 単純集計の結果、項目間のクロス集計を出したが膨大になった。 業種によってかなり傾向が違う。企業規模が違うとまた内容が異なる。 データのくくり方を工夫しないと統計が見えてこない。もう少し時間がかかる。 計画素案第2章でアンケート結果とある。市の公式アンケートではないが、同友会・商工会共同のアンケートを計画に採用してよいか。 参考資料で結果を載せるという方法もある。位置づけを議論してもらいたい。
事務局	第4章計画推進体制については、最上位は審議会となるが、審議会の検討だけでは計画策定が間に合わない。審議会以外でも議論できる場があるといいのではと考えている。 外部の事業者の意見を取り入れるためにも、計画を作った後も実効性があるようにするには民間ベースの会議体組織が必要ではなからうか。 実際に推進体制をどういったことがいいのか。 中小企業者の自主的努力が必要なので、民間事業者主催がいいのではと思う。
委員	進捗管理と推進体制は別と考えるのか。推進体制にどのような機能を持たせるのか。
会長	審議会だけでは短期間での計画（策定）は難しい。 ワーキング会議を行い、上がった意見を審議会で審議することで時間短縮したい。 本来ならば委員の内部組織でワーキンググループを作るのがいい。 ワーキンググループの難しさは、他団体から「意見が言えないのか」と言われたときに説明できるようにしておかなければならない。 推進体制について意見はいかがか。
委員	審議会で一から審議するのは理想的だが、物理的に難しい。
委員	委員だけで考えるのは難しいのではないか。
委員	まだ具体的なイメージが湧いていない。
会長	一般的だと素案を事務局が作って審議会でたたくが、それがないので審議会で作らないといけない。 作成にあたり現場の意見を吸い上げたほうがよい。
委員	計画の具体的なイメージが湧かず、意見が出しづらい。
委員	ワーキンググループでの議論は時間的に難しいのでは。 意見の吸い上げ方の検討が必要と考える。 ある程度審議会でラフ案を作り、外部から意見をいただくのはどうか。
委員	計画をどこまで作り込むか固めていかないといけない。

	<p>条例の5つの施策で重点施策や優先順位を決めていかなければならない。</p> <p>「自立度の高い糸島」を目指すには、糸島の有効求人倍率が低い。その雇用の確保等を何とかしなくてはならない。</p>
会長	<p>5つの施策を同時に進めるのは無理だが、5つの施策全体の進捗チェックはやっていかないといけない。</p>
委員	<p>計画の推進は、中小企業者が自ら動く形にしないといけない。</p> <p>10月からの計画スタートはタイトスケジュールで審議会メンバーだけでは無理。</p> <p>多様なニーズを踏まえるため、実務者会議を設けるといふのがある。</p> <p>とはいえ議論の内容が多いと難しい。テーマを絞って5つの施策のうち、いくつかをテーマに会議してワーキングで審議するのはどうだろうか。</p>
委員	<p>限られた時間なので、対外的に商工会が積極的に下部組織を作り、手を入れて進めていってはどうだろうか。商工会が組織の事務局的に管理していくような意味合い。</p>
委員	<p>中小企業として我々が何をやっていくか、条例や総合計画、商工業振興計画について改めて認識した。知らないと関係者が組んでいくことができない。</p>
委員	<p>事業者の意識の低いことが問題である。</p> <p>意識づけが足りていない。物事を絞ってやっていくことが必要。</p>
副会長	<p>まず絵に描いた餅にならないこと。計画が進まなかったら意味がない。</p> <p>実効性があるものにするには、関係者を巻き込んで計画立てて進めていくことが大事だと考える。</p>
会長	<p>条例は企業の内部を強化していくものである。</p> <p>市の意向と違うが、総合計画に沿ったものでなくて、企業が内部からどうやっていくのか、共通性のある重要な部分について、何をテーマに審議会が議論していくのか。今後やっていくことを決めてワーキンググループのメンバーを募り、その呼びかけを商工会や同友会で動いていくのはどうか。</p>
委員	<p>商工会や同友会など団体に所属する事業者は意識があると思うが、入っていない人への条例の落とし込みをどのように進めたらよいか。</p>
会長	<p>声掛けは商工会や同友会が行うが、公平にメンバーを募っていく。</p>
委員	<p>一部の意見に固まらないか心配する。</p>
委員	<p>特定の人だけ集まっても仕方ない。</p>
会長	<p>ワーキンググループは商工会・同友会中心とは考えていない。</p> <p>審議会としての下部組織を作る。メンバーは公募する。審議会で検討テーマを指定する。</p>
委員	<p>意見を受けて叩き台を作ってワーキングで検討していく、その動きで計画策定が間に合うか。</p>
事務局	<p>素案を事務局で作っておいて、事前に準備しておき協議していただく流れがよいように考える。</p>
会長	<p>素案は事務局、商工会、同友会で作っていく方向でよいか。</p>
委員	<p>ワーキングのメンバー募集は審議会か。</p>

会長	ワーキングは分科会という形式で考えている。
委員	分科会を作るまでもなく、商工会や同友会やそれぞれの中で意見をもんで、審議会で発表してもよいのではないか。
会長	<p>そのようなやり方が望ましいが、委員の負担が大きくなると考えていた。</p> <p>それでは各委員が動いてそれぞれの所属や関係者で動いて意見をまとめ、素案とすり合わせるというのでよろしいか。</p> <p>① 事務局が素案を作る</p> <p>② 施策の優先順位もつける</p> <p>③ 各委員が意見をヒアリングして内部協議する</p> <p>例えば岡本委員は学校のなかで考えられる意見をまとめていただく。</p> <p>④ 各委員はその意見を示し、次回の議論である程度確定させていく</p>

(3) その他

特になし

3. その他

(1) 次回審議会の開催日時 日時：4月26日(月)9:30~11:30

(2) その他

事務局	<p>前回、小津委員からご質問いただいたオンラインでの審議会は、40分以内であればZoomが利用できることが分かった。40分以上は有料会員になる必要があり、予算を確保する必要が生じる。できるだけ、対面での議論を行いたいと考えており、今後の新型コロナの状況等により、オンラインでの開催の必要性が高まれば、委員の皆様にご相談させていただき、オンライン開催を検討させていただきたいと考えている。</p>
副会長	<p>「みんなの」が有料のZoomアカウントを保有している。それを使えば、40分以上の会議も開催できる。</p>

■閉会